

田中先生に宜敷御傳へ被下度 (當番幹事 正木豐)

○商賣柄とは云ひ乍ら東奔西走、席温まるに遠なしの有様。今日は轉任の荷造りをして積み出し遅刻して来る人の氣も知らず何の彼のさ口八ヶ間敷連中の喧さ此の上も無し。併し卒業後初めて顔を合す人々が殆ど全部、まても愉快。又、田舎落とは情なし。(長谷川海の醫者)

○未だ遊んでゐます。今夜くうつた事は初めです。(慶大 河合一郎)

○僅々二日で在京の同窓生が集まつて肥えた、ヤせた、鬚だ、禿げたと談じて面白い事限りなし。(中山二郎)

○何を謂ふても同窓生の會合は嬉しい。(秋山成六)

○アアうっかり十年を過ぎたワイ、今夜は集るべきものは全部集つたさいふ大盛況で、スキヤキで舊情を温む。(山本義)

○岡山を菓立つて足かけ十年。同勢十二名。金魚の養十六人半。但し「半」は河合の女房が私する處に候。益々岡山醫大の發展を期し申候一(村山富治)

○酒を飲みつつあり一(田宮貞亮)

○九年目で會へばらしい顔ばかり(百束脱兎郎)

○岡山を菓立ちしてより九星霜にて會す。(伊澤好爲)

○卒業九年一室に會し愉快なること限りなし。(神崎勤、櫻林哲二)

席上噂に上つた人次の如し(順序不同、敬稱失禮)

田中先生	上坂先生	田村先生	安藤先生	好本先生	八木田先生
齋藤先生	諏訪先生	島岡先生	筧先生	荒木先生	(故)高橋先生
(故)筒井校長	加藤先生	田部先生	由井君	吉田君	吉栖君
梅崎君	二川君	川北君	廣畑君	(故)土橋君	七樂君
大森君	細野君(舊姓淺野)	三橋君	藤本君	松浦君	吉田(功)君
松田金十郎様	村上 奎二様	平松君	大石君	内山君	須之内君

### 第四回中國眼科集談會

會場 岡山縣倉敷町倉紡中央病院

時日 大正15年11月7日午後1時

#### 演説抄録

##### 1. 眼窩血管腫の1例

東 泰一君

演者は眼窩に發生せる血管腫の1例に就きて報告し、其の發生、療法等に就て述べ、組織的標本を供覧せり。

##### 2. 細糸角膜炎の2例

金光康生君

細糸角膜炎に就きて文獻、細糸の構造及び發生に關する諸家の説を略述し、自家實驗2例を述べ、演者は特に細糸の組織所見を詳述して、ヘス氏の細糸は角膜上皮細胞の異常なる再生に依りて發生すこと云ふ説に賛せり。

#### 追加

畑 文平君

本症は診断の際、河本氏角膜瀰注法を應用する時は細糸浮びて最もよくわかる、尙ほ全體のみならず横断切片

を造れるは軸索と膜様部の區別明かにわかりて興味深し。

### 3. 脊髓空洞症に伴ふ眼症状に就て

周々木三千太郎 君

演者は本病の眼症状の甚だ複雑なる1例を報告し、該患者を供覧せり。

### 4. バリノー氏結膜炎の1例

鈴木得三君

壯年の醫師にて定型的のバリノー氏結膜炎を患へる1症例を報告し、其の切片の組織的所見に就きて述べ、且本症の原因として従來擧げられたる諸説を述べ、本例の既往歴には横痃切開の膿の飛入せる事あるを以てこれと何等かの關係あるに非ずやと考ふ。

追加

畑文平君

バリノー氏結膜炎が外科醫がBuboを切開する際に、膿汁が結膜囊内に飛入して起る事あり、之はBuboの膿汁中の或は毒素に依るものならん。

追加

藤田秀太郎君

以前の古き経験なるが海軍々醫某氏がBuboを切開したる際、其の膿汁が結膜囊内に入りて起りたる症例にして動物との接觸は全く否認せり。硝酸銀に對して甚だ過敏にして其の點眼の爲に熱が上り、又は耳前淋巴腺の腫脹を増したることを記憶せり。

### 5. 兩眼を摘出せる網膜膠腫例

藤井清信君

生後120日の男兒にして兩眼に網膜膠腫を發生せるもの兩眼共摘出せり。左眼は硝子體腔の殆ど全部を腫瘍塊によつて充たし、右眼には乳頭附近に4箇、赤道部に1箇の各獨立せる腫瘍結節を發生せるを認めたり。本例の所見及び從來の自己の経験例の組織學的所見に徴して本腫瘍の原因は胎生時期の異常によるものにして、多發性に發生し得べきものなることを述べたり。

追加

高橋謙君

左眼の網膜膠腫にて來院摘出。當時右眼の檢索を怠りしが、退院後3月にして右眼の視力減弱あるやに思はるきて來院す。右眼に初期膠腫を認め直ちにX線療法を繼續せしが腫瘍は漸次に増大し、失明状態に陥りしが猶ほ約1箇年同療法を繼續せしが思はしからず、兩親途に意を決し摘出す。一眼を摘出後1年2箇月目なりき。一眼の網膜膠腫の場合には必ず他眼の檢索をなすべきは當然にして最も之を行ひ易くするには一眼摘出の際の麻醉時を應用し他眼に「アトロピン」點眼をなし置き直像鏡にて充分檢すれば便利なり。

追加

畑文平君

「レントゲン」深部療法は眼科醫自ら裝置を有し、規定のDosisを用ひて自らせざれば效果期待し能はざるべし。眼球摘出の際にAxenfeldの「クランム・ツァンゲ」を用ひて視神經を挟み出来る丈け長く切除する宮下氏法を推奨す。

### 6. 眼科に於ける驅黴療法に就て

牧野真人君

演者は近時行はれぬる諸種の驅黴療法治驗に就きて述べ頓挫的效果に於ては尙ほ「サルバルサン」の右に出るものなきを、著效ありし24例を擧げ次の如く説明せり。

(1)「サルバルサン」は眼黴毒中比較的陳舊ならざる虹彩炎、虹彩毛様體炎、網膜炎、視神經網膜炎、硝子體濁濁に著效あるは諸先輩の説に一致す。

(2) 一般に角膜實質炎に於ては「サルバルサン」は効果を認めざるも演者の實驗例中5例は顯著なる効果を示せり、然れ共内4例は後天性角膜實質炎とおぼしきものにして先天性角膜實質炎は只1例に過ぎざりき。

(3) 従來出血性眼疾患に對しては「サルバルサン」注射は危險視せらるるも演者の實驗例中網膜出血2例、硝子體出血2例に對する「サルバルサン」注射は毫も有害に作用することなきのみが顯著なる効果を示せり。

追 加

藤 井 清 信 君

「マラリア」療法奏效せりと思はるる先天敵毒による角膜實質炎、鼠咬症毒療法によりて進行の停止せる脊髓癆を追加す。

追 加

木 村 五 六 君

「サルバルサン」注射によりて眼底出血を見たることあり、3回程注射を反覆せるに其の都度出血せり。

### 7. 工場に於ける眼傷害の統計的觀察

大 森 操 君

三菱神戸造船所、三菱電機神戸製作所及び三菱内燃機神戸製作所従業員にして、神戸三菱病院眼科を訪れたる眼工傷患者に就き過去1箇年間の統計を求め次の結論を得たり。

- (1) 工場に於ては眼傷害は身體他部に比し比較的多し。
- (2) 眼傷害は左眼に多し。
- (3) 異物に因る眼外傷最も多し (76.1%)。
- (4) 眼傷害は下方に多し、こは結膜、角膜は上方は上眼瞼によりて被はるるこ及びベル氏現象あるためならん。
- (5) 右利者は右眼内下部に多く、左利者は左眼内下部に多し、こは作業時の姿勢及び顔位に關係するものならん。
- (6) 眼瞼内眥部には殊に火傷多し。

### 8. 視神經「ゴム」腫に因する眼球突出症例

木 村 五 六 君

視神經乳頭の新生物は稀有の疾患にして「ゴム」腫としては既往文獻中5,6例あるに過ぎず、眼球突出せしものは只1例ありしのみ。演者は最近其の1例に遭遇せしを以て實驗例、寫眞、眼底圖及び上記5,6例と比較報告し眼球突出に就きては、病理的所見を缺くも眼球後部に於て視神經肥大し、爲に眼球を壓迫突出せしめしものと想像して可ならん。尙ほ演者は自家考案の角膜點墨針及び角膜燒灼器を供覽せり。

### 9. 臨牀小話

友 次 彰 夫 君

#### (1) 「ピオクタニン」の應用

青色「ピオクタニン」は種々の外眼病に用ひて効果あるものなれど、余は茲數年間これを義膜性結膜炎に用ひて著效を得たり。濃度は1%を用ひ、義膜はなるべく剝離除去せる後結膜面に塗布し後ち傳染性のは昇汞水にて、然らざるものは硼酸水にて洗滌し過剰液を除去す。1日1,2回。

#### (2) 白内障手術後の交感性眼炎

右眼に瓣狀摘出術をなしたるに潜行性虹彩毛様體炎を起し次いで左眼に交感性虹彩毛様體炎を起せり。兩眼共虹彩炎に對して何等治療を加へず放置せるに第二眼は全然失明し第一眼の炎症は次第に消退し、後虹彩切除を凸13Dにて0.1の視力を得たり。

追 加

畑 文 平 君

涙囊炎に「ピオクタニン」を注入して逆流のために角膜を障害せる例あり、又眼球内に注射して全く壞死に陥ら

したる例あり。

### 10. 色盲検査表の簡易なる製作法及び作表供覧 大谷顯三君

暗室内に於て水銀電燈下に於て赤色と綠色との繪具を以て各色の濃度を加減しつつ表を描けば、この電燈より出づる光線中には赤線を缺けるが爲、恰も Helmholtz 氏による Protanopie, Hering 氏による Rot-grüne Substanz の Dissimilation の起り居らざるものと同様の状態になるを以て、健眼にては本電燈下にては識別し得ざるも日光下にては識別し得るものを作り得、且赤綠色盲者は日光下にては之を識別し得ざる筈にて、某色盲者は實際之を日光下にて識別し得ざりき（作表供覧）。

尚ほ本製作法上の長所及び製作の際の二、三の注意を述べたり。

### 11. (1) 興味ある網膜色素變性症の2例 松岡與之助君

第1例は眼底中央部より始まれる網膜色素變性症にして症状を略述せし後、演者は本例を先づ一種の晩發性黃斑部變性症起り夫れより發展して網膜色素變性症を見るに至れるものならんを解説せり。

第2例は家族的に兄弟3人に高度色神異常を見る網膜色素變性症にして、本例は網膜圓柱體の變性進み圓錐體の變性を合併したるが爲起りし色神異常に非ずして圓錐體、圓柱體共に一様に先天性異常を有し、一は色神異常となり、他は夜盲を有する網膜色素變性症として出顯同伴するに至りしものならん。

### (2) 眼瞼軟骨摘出後腫瘍狀増殖を來たしたる結膜の組織標本に就て

松岡與之助君

「トラホーム」療法として眼瞼軟骨摘出をなしたるに術後9年餘にして上眼瞼結膜全面に大小不同の腫瘍狀増殖を來たし組織學的には肉芽炎症の結膜下竝に結締組織間は勿論、皮下脂肪組織内迄も深く侵入せるを認めたり。

追加

藤田秀太郎君

余は Kuhn 氏軟骨切除を多數施行するも「トラホーム」治療の目的ならず、後發症たる内瞼症兼睫毛亂生症に對し特に之が他の手術後眼瞼短縮せる場合に行へるものにして未だ之が爲めに演者の如き症例に接せず。

### 12. (1) 網膜血管の稀有なる分枝2例 田丸要槌君

第1例は一動脈の經過中2箇所に於て三分枝をなし、第2例は兩眼均等の位置及び形状にて動脈の三分枝を示せり。

### (2) 急性淋巴性白血病に於ける網膜の變化に就て（標本供覧）

田丸要槌君

演者は白血病の文獻を涉獵し、次で演者の接したる急性淋巴性白血病患者の病歴其の他内科的眼的的觀察を略述し、最後に其の屍體より摘出したる眼球の顯微鏡的標本を供覧せり。

追加

畑文平君

先頃遭遇せる1例に於て、右眼は直像及び「ゲルストランド」大檢眼鏡所見に依れば、乳頭異常無く、中心動脈も異常なし、只下顳動脈分枝稍々水平位をさり黃斑部方面に走り通常の分布領域は乳頭下顳動脈より出でたる3本の動脈（毛様網膜動脈と見做さるもの）により代償せらる、上顳動脈は位置に大なる異常なけれ共、其の太さ他の相當分枝に比して細く其の主なる分布領域は乳頭上側縁より出でたる1本の毛様網膜動脈に依り支配せらる、靜脈を檢するに所謂網膜中心靜脈と見做す可きものを全く缺き周邊より集まり來れる7本の大靜脈枝は乳

頭縁の周圍に於て何れも鉤狀に屈曲して乳頭の鞏膜脈絡環輪との間に消失せり。左眼大體右眼と同様の所見を呈す。

13. 臨牀瑣談

畑 文 平 君

(1) 眼球結膜の「トラホーム」顆粒標本

演者は球結膜に「トラホーム」顆粒を生ぜる 2 症例を報告し且組織標本を供覽し、臨牀上には診査上留意せざれば險結膜、穹窿部或は角膜等に於ける著明の病變の爲めに眩惑されて不注意に見落さる事多かる可し。

(2) リリツァス眼瞼内鬚睫毛亂生症に對する手術式に就て

リリツァス氏は最近「トラホーム」による内瞼症、睫毛亂生症及び下垂症に對し行ひ易き、結果の確實なる事、皮膚の創痕を避け及び眼瞼の整容を保つ等の諸條件を満足し得べきを唱へて一手術法を發表せるが、演者も同氏の原法に従ひて之を試み多くは満足すべき效果を得たりとて其の手術法を紹介す。

(3) 義眼裝填手術に就て

義眼裝填手術は種々なる方法あれど、共通の難點は移植せられたる皮瓣又は粘膜炎が癢痕的に短縮し結膜囊狭くなり、效果水泡に歸ることあり。演者の經驗せる 2 例を見るに、第 1 例は山田博士の推奨せし方法により、同氏が耳後皮膚瓣を用ひたるに對して、頬粘膜炎を切除して移植せるが、先づ下眼瞼、次に上眼瞼を一定期間を措きて順次に行ひたるが確かに效果ありて一定度の廣さの結膜囊を作り得たるが、其の経過に於て、下眼瞼手術先づ終れる後、上眼瞼結膜囊は未だ無きを以て適當大なる義眼或は綿塊を挿入する事を得ず、不適當なる小「タンボン」を入れて治療を待たざるべからず、從つて上眼瞼の手術終る頃は下眼瞼結膜囊は又不規則に縮小して最早適當なる義眼の裝填不可能となれり。其の後結膜創面の癒合凹凸混雜し更に移植をなすに忍びざりしが故に背水の手術として上下結膜穹窿部と思はるる所に深く廣く切開を加へ、此の創面に直接大なる義眼を裝填し壓迫綑帯をなし其の経過を懐せるに 1 週間後創面自然に治癒し充分なる囊を作り義眼を充分荷ひ得るに至れるが、持續的效果あるや否や。

第 2 例は小眼球及び結膜下大囊腫摘出後、下結膜囊のみ淺くして義眼を保ち能ざりし者に、下結膜囊に前患者の如く廣き切開を加へて囊狀創面を作り直接義眼を挿入し置けるに 20 日後充分の廣さにて治癒し満足すべき結果を得たり。結膜造囊法に當りて此の極めて原始的單純切開法が時に試みるの價值あるべきか。

(4) ランゲ鞏膜「ランプ」を以てする網膜血管像自觀に就て

Lange の鞏膜透視「ランプ」を供覽し之を以て網膜血管像を自觀し得る方法を述べ、且其の際所謂眼内中心窩反射現象 (Entoptische Fovealreflex-phenomen, Brückner) を認め得。中心性網膜炎患者に本器にて自觀せしめたるに患眼の中心部暗く見ゆと告げたるも素人なれば果して如何なる程度なるや明ならず。尙は眼内疾患に對する鞏膜「ランプ」或は Diaphanoskop の應用は吾國人は葡萄膜色素に富み、眼内に光線を透過せしむる事困難なれば臨牀的價值は色素乏しき洋人に於けるが如く大なるものならずと信す。

14. 頭髮脫落を伴ふ葡萄膜炎の 1 例

筒 井 德 光 君

17 歳の女子左眼の麥粒腫より眼窩蜂窩織炎、全眼球炎を續發し、發病後 2 箇月を経過して來たる、入院 1 週間に於て全身倦怠、食思不振を訴へ、右眼に急性非化膿性葡萄膜炎を發し僅々 10 日間に視力は 1.2 より眼前手動となる。其の後は慢性に經過し 3 箇月後の今日尙ほ指數 1 米なり。右眼に葡萄膜炎を發して約 3 週間後より頭髮脫

落を初め大部分脱毛す。眼疾患に際し頭髮の脱落を併發するものに交感性眼炎、特發性葡萄膜炎、急性非化膿性脈絡膜炎(原田氏)、帶狀「ヘルペス」等あり。本例は初め全身症状を伴ひ、發病急性にして經過慢性なる點、視神經炎を初發し網膜炎、網膜剝離、硝子體混濁、虹彩毛體膜炎を發せる點は原田氏の脈絡膜炎に似たるも、第一眼の發病後約7,8週間に第二眼に起りし點、患者が第一眼の摘出を拒みし爲摘出せざりしが各種の療法が無効に終らんとする點竝に起交感眼に見らるる結核様結節を第一眼の虹彩に多發せる點等よりして甚だ稀なるものなれども恐らく全眼球炎より起りし交感性眼炎ならんを信す。

### 追 加

高橋、藤田、木村氏は同様に頭髮脱落を伴ひし葡萄膜炎の各1例を追加す。

#### 15. コーツ氏病の1例

林 雄 造 君

演者は22歳の男子の左眼に見たるコーツ氏病の一種なる多發小血管瘤を伴ふ一種の網膜變性症の1例を報告し本病の本態に關する諸家の説を述べ原因の速に闡明にせられんことを希望せり。

#### 16. 網膜中心動脈の痙攣

藤 田 秀 太 郎 君

52歳の男、1箇月以來折々左眼に一過性の失明を來す云ふ、其の間僅に2,3分に過ぎれども其の間左眼は全く見えず。日に1,2回乃至數回の發作あり。睡眠不足の翌日若くば氣分勝れざる時に多きが如し。余は恰も其の發作中に眼底を検査するの好機を得て明かに網膜中心動脈の痙攣に原因することを確めたり。始め何等變状無き眼底をのぞきつつある間に先づ上鼻側動脈に次で他の動脈に及んで狭小しつつ或るものは全く白條化し或るものは内腔にチゲンチゲンになれる數箇の血柱ありて徐々に前進しつつある状態にて、その他靜脈管腔も空虚になり乳頭蒼白其の境界不明、之に近き周圍の網膜も潤濁せる様、全く網膜中心動脈の「エンボリー」と酷似し居れり。以上の變化は1分も出ずして再び復舊し以前の健康状態に返れり。以上の所見は到底他の原因を以て説明する事能はず。歐洲に於てHarbridge 其他2,3氏之と類似の報告あり。(鈴木得三記)

## 第四回岡山皮膚科泌尿器科地方會記事

大正15年10月30日岡山醫科大學皮膚科教室にて開催、演說抄録を次に掲載す。

### 1. 強度の沃度疹

井 手 又 藏 君

53歳男子、脊椎「カリエス」にて入院治療中「ヨードホルマリン」10瓦宛約60日間服用し居りし處、20日前より項部、頸部、額部、左右前腕、左右上腿に多數の結節、潰瘍發生せり。依て沃度疹の診斷の下に(尿中沃度反應強陽性、マ氏反應陰性)即日沃度劑の服用を中止し生理的食鹽水の靜脈内注入8回(隔日)及び結節潰瘍には生理的食鹽水又は硼酸水電法を施せしに約27日にて殆ど全快せり。

### 2. 皮膚疣狀結核の1例

荒 田 一 郎 君

山本某男19歳商、初診大正15年7月6日。

左側頸部に手掌大の暗赤色の病竈あり。是は4年前より存在すといふ。自覺的には多少癢痒を感じるのみ。切片を取りて鏡檢せるに定型的の結核病竈あり。